

令和3年11月19日
(2021年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南千里中学校
校長 羽間 博子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1、教科に関する調査結果の分析

【国語】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問について全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○ 話すこと・聞くこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

・話合いの話題や方向、質問の意図を捉える。

(課題)・話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。

○ 書くこと

(成果)・正答率が非常に高く全国値を上回っている。

・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。

(課題)・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。

○ 読むこと

(成果)・概ね良好な結果で、読む力の定着がみられる。

・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。

(課題)・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。

○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(成果)・良好な結果で、基礎的な知識事項の定着がみられる。

・文脈に即して漢字を正しく読むことや、事象や行為などを表す多様な語句について理解することができている。

(課題)・相手や場に応じて敬語を適切に使う。

(3) 国語科における成果と今後の改善点について

平均正答率は全体的に高く、すべての設問について全国値を上回っている。また、無解答率が低く、難しい記述の問題でも積極的に取り組むことができている。

しかし、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」設問や、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」設問のような、自分の考えをまとめたり、ことばや文章のつながりを理解して記述する力が不十分である。そのため、今後の授業の中で、根拠を明確にして自分の考えを記述する活動や、段落と段落の関係を理解して文章を読む活動をさらに取り入れ、自分の考えをより正確で意図を持って伝える力を育成する必要がある。普段の授業から知識事項を覚えるだけの取り組みではなく、対話や交流の機会を増やし、自分の意見を伝える活動や、語彙力を増やす授業などを増やしたい

【数学】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問について全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○数と式

(成果)・基礎的・基本的な数学的スキルは定着しており、概ね良好な結果である。

・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。

(課題)・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること。

(成果)・基本図形に関する問題はよく理解しており、正答率が高い。

・証明の根拠として用いられる定理や、図形の性質を理解している。

(課題)・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現すること。

○関数

(成果)・関数に関する知識はあり、問題の解法を理解している。

(課題)・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

○資料の活用

(成果)・与えられた資料やグラフから、必要な情報を読み取ることができる。

(課題)・相対度数の必要性を理解すること。

・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

(3) 数学科における成果と今後の改善点について

全国平均と比較すると、すべての問題において平均正答率が高い。数学的な知識や問題を解く技能は定着していると見受けられる。しかし、その知識や技能を用いて、事柄の理由や問題の解決方法を説明することになると、無回答率が増えると同時に、正答率も減る傾向にある。

今後は、基礎的・基本的な知識・技能を土台にして、問題を解くだけでなく、その根拠を確認しながら問題を解決する力をつける必要がある。そのために、言語活動を充実し、考えたことを数学的な表現を用いて説明する活動を増やしていく。

2. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」より

※全国・大阪府とのデータ比較より

(1) 家庭生活について

- 「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値よりも上回っている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値よりも上回っているが、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定回答は、下回っている。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」については、「きちんと守っている・だいたい守っている」が 7 割近く、「あまり守っていない・守っていない」が 1 割未満であった。大阪府・全国の値と大差はない。
- 「普段(月曜日～金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」について、「1 時間以上、2 時間より少ない」という回答が最も多くみられた。
- 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1 日当たりどれくらいの時間読書していますか」という設問に対して、「全くしない」と回答した生徒は約半数いた。

改善・向上のために

- 読書週間の定着を図るため、授業の中で関連する書籍を紹介したり、生徒会活動の中で読書週間を高めるための働きかけをすることで、図書室の利用機会を増やしていく。
- 朝食をとることの大切さや規則正しい生活習慣を身に着けることの大切さを、保健だより等を活用しながら生徒・家庭に伝えていく
- 今後も携帯電話・スマートフォンの利用について、使い方やルール等、家庭との協力・連携を図っていく。

(2) 自分自身について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値よりも上回っているが、「そう思う」という解答は大阪府・全国の値よりも下回っている。これは大阪府・全国に比べて自己肯定感が高い生徒は多いが、自信をもって言える生徒は少ないことが分かる。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値に比べて上回っており、自己有用感が大阪府・全国に比べて高い傾向にあると考えられる。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値に比べて下回っているが、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値に比べて上回っている。これは決断力は低い、挑戦する心が強いということが分かる。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定解答の中でも「そう思う」と解答した生徒は大阪府・全国をはるかに上回っており、いじめは良くないことだと考える生徒が多いということが分かる。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対する肯定解答は全国の値に比べて下回っており、社会の中での役割を果たそうとする意識に課題がある生徒もいると考えられる。

改善・向上のために

□学校として

- 生徒が自分の長所や個性を知ることができ、自分の自信につながるような取り組みを進め、さらなる自己肯定感を育む。
- 個々の生徒の理解に努めるとともに、教育活動全般において一人ひとりの生徒の良さが発揮できるような役割や取り組みを、自然にまたは意図的に設定することで、自己有用感を育む。またそこでの生徒一人ひとりの活躍を褒めることで、自尊感情を育む。

●教科の学習活動や特別活動、総合的な学習の時間において、生徒が主体的に行動・協力し、何かを達成することで、生徒主体の場面を増やし、やりがいや達成感を感じることができるような取組みや指導を行う。またその際には人が社会の中で果たすべき役割に触れ、その意識を持たせることで、一人でも多くの生徒がその役割を理解し、自ら進んで他者のためにできることに取り組もうとする意識を養う。

□家庭として

●日常生活において、子どもが主体的に活躍できる役割や機会を設け、その活躍を積極的に認め、達成感を感じさせることで、子どもの自尊感情や自己有用感を育む。

(3) 学校生活・学習について

「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が、全国値よりも下回っており、コロナ禍で学校で過ごすことが”楽しい・安心だ“と感じられない生徒がいることがわかった。

「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」に対する回答はともに全国平均を大きく上回っており、授業や総合の時間などの活発な意見交換がなされていると思われる。

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」、「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目についても大きく府・全国を上回っており、生徒自身、家庭ともに学習に対する関心の高さがうかがえる。

「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」という項目で、大阪府・全国値に比べ、下回っており、GIGA 導入 2 年目を迎える本校としても授業における ICT 機器の活用が急がれる結果となった。

改善・向上のために

□学校として

●生徒が安心できる学校づくりはもとより、総合的な学習の時間をはじめ、すべての教育活動を通して、学級の友達との話し合い活動により、自分の考えを深め広げることや、自分と異なる意見に対して、考え、議論する機会を積極的に設けることにより、違いを豊かさにする学級・学校風土を醸成していくとともに、教職員が校内研修を通して魅力ある学校づくりについての学びを継続していく。

●授業における ICT 機器の活用は 1・2 年生を中心に広がりを見せており、学校全体として取り組みを進めていく。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では、個々の学習状況に合わせた「個別最適な学び」や異なる考え方が組み合わせることによって、より良い学びを生み出す「協働的な学び」を追求し、主体的・対話的で深い学びとなる授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。また、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力をつけていくために、学校・家庭・地域が手を携えて、生徒の自立と幅広い学習の機会をつくっていきたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。